

The background features a gradient from light purple at the top to light blue at the bottom. It is decorated with several realistic water droplets of various sizes, some with highlights and shadows. In the center, there is a faint, large, light-colored circular graphic that resembles a stylized sun or a lens flare.

ADHD・不登校のお子様への対応

活塾の想い

「アミューズメントとしての塾」が活塾の目指すところです。「人生に生きる学びを得る」ことを理念としています。自発的に目標を持ち、その目標に向かって自ら努力する人間を育てることが当塾の方針です。

ADHD・不登校のお子様も同様です。これから先も人生は続いていきます。人生に生きる学びを得て、自分で、望む人生を創っていくための一助をさせていただきたいと思っています。

昨今、世の中は目まぐるしく変わっていています。昔に比べて色々なことへの理解が進み多様化してきています。ですが100%理解されて受け入れられるといったことはあり得ません。

全体をどうにかすることは不可能です。

ですが、私も含めて多くの人間は狭い世界の中で生きています。その狭い**自分の世界の中に理解を示してくれる人がいるかどうか**が重要**です**。世間の目は本人よりも周りが気にしていることが多くあります。そして本人も気にするようになります。

当塾はお子様の世界の理解者になります。

活塾の想い

当塾では積極的に学校に行くような声掛けは致しません。

今の保護者はミレニアル世代(ゆとり、つくし、さとりなど)の方が多いかと思います。

私たちにとって学校は行くべき場所で、行っていない=悪でした。

ですが今のZ世代(1997年頃から)やアルファ世代(2010年頃から)にとっては

「学校へ行かないこと=必ずしも悪」ではありません。

昔の日本の教育は平均化が重要視されてきました。今もその風潮はありますが、流れとしては「個」を活かす方向へシフトしてきています。

ですがまだ日本の学校は「平均化に特化したカリキュラム」になっているため、

今を生きる世代と私たち親世代の価値観はズレていっています。

私もそう思っていました、「学校へいくこと=アタリマエ」

そういった「無意識の決めつけ」が特にADHDや不登校になっている子どもを傷つけます。

ですが親目線で考えると「アタリマエのことを言っているだけ」なので戸惑います。

そのため保護者も時代や子どもの価値観に合わせたアップグレードが必要となります。

当塾では親学も開催していますので一緒にアップグレードしていきましょう。

出席認定について

※詳細はHPの「不登校の方への対応（出席認定など）をご覧ください

不登校生のICTを使った出席扱い制度の現状

子どもが不登校になる背景には、さまざまな要因があります。その中には、学校には通えないけれど進学や勉強に意欲を持っている子どももいます。

現状では、不登校生が出席扱いになる方法は3つあります。

教育支援センター（適応指導教室）へ通う
フリースクールへ通う
自宅でICTを使ったオンライン学習をする

文部科学省は2005（平成17）年にインターネットを使用した自宅学習をした場合にも出席扱いとする通知を発出しました。文部科学省では、「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」（令和元年10月25日）の中で、ICTによる不登校の「出席扱い制度」についてを含むこれまでの不登校施策に関する通知について改めて整理し、まとめました。

また、近年の不登校児童・生徒の増加を受け、文部科学省は「学校に復帰する」ことを目標とせず、子どもそれぞれの社会的自立を支援することを目指しています。この目標により、さらに出席扱い制度の認定率が高くなりつつあります。

出席認定について

※詳細はHPの「不登校の方への対応（出席認定など）をご覧ください

当塾では、

- ・ フリースクールへ通う ※
教室に通っていただくパターン
- ・ 自宅でICTを使ったオンライン学習をする
教室には通わずご自宅でICT学習をしていただくパターン

この2点に該当するような運営を行います。

※当塾はフリースクールではありませんが、将来的にはフリースクールとしてのサービスも展開したいと考えています。

当塾の方針

1.存在承認：来てくれたことを褒めます。いるだけでえらい！

2.スモールステップの目標設定（できる限り自分で設定できるように関わります）

3.ダメなことはダメ！

すべてを許容するわけではありません。何かあった場合はまず話を聞きます。

その後理由を伝えて指導したり、吐き出すことで自ら改善することもあるので何もしなかったりです。

4.勉強より社会との関りを重視

ADHDや不登校の生徒は勉強が遅れることより社会と隔絶された状況になってしまうことが課題となります。そこから二次被害へと繋がります。そのため学習面でもサポートしますが、メインは当塾を居場所と思って過ごしてもらうところにあります。

5.保護者を巻き込む

保護者の協力なしに改善はあり得ません。当塾に通う＝何もしなくていいではありません。当塾は保護者も過ごせるアミューズメント空間があります。そこで一緒に時間を過ごしていただくこともご家族にとって重要な時間となります。